

ジンコソーラー2018年決算発表、営利能力が倍増

2019年3月22日、世界をリードする太陽光発電会社ジンコソーラー（NYSE：JKS）は2018年の決算を発表した。太陽光発電モジュール事業の強力な成長により、ジンコソーラーは2018年の世界出荷量が11.4GWに達し、他社をはるかに超える。出荷量が3年連続で世界一を獲得し、そして、通年の営業利益が2017年より98.2%増加し、営利能力が倍増。市場占有率もリードして、更に他の相手との差を広げる。

一、出荷量が11.4GWに達し、他社をはるかに超える

報告によると、2018年の太陽光発電モジュールの出荷量が11.4GWで前年比16.0%増加、業界で年間出荷量の最高記録を更新した。年間売上高が250.4億元（36.4億ドル）である。年間営業利益が6.449億元（9,380万ドル）で前年比98.2%増加した。年間純利益が4.065億元（5,910万ドル）で前年比186.9%増加した。年間粗利益率は14.0%、前年比23.9%増加した。強力なグローバルな配置により、ジンコソーラーは世界市場シェアを更に拡大した。

営業収入業務の構成において、高効率単結晶製品の増速がはっきりしている、普通多結晶の占める割合が萎縮している。ジンコソーラーの売上高、運営重点は多結晶製品から高効率単結晶に転換したことを明らかに見える。

二、利益が倍増、Cheetahモジュールが注目

ジンコソーラーのCheetahモジュールが発売されてから、市場での供給が不足で、高効率な製品の拡産が急速に業績を大幅に伸びた。ジンコソーラーの営業利益の増速は着実に成長を維持し、前年より倍増になった。ハイレベル製品の市場需要の激増と大きなプレミアムスペースで、全世界のモジュールメーカーが直接に利益を与える。

三、2019の需要が旺盛 出荷量が40%増を目指し

全世界の太陽光発電の需要の回復につれて、ジンコソーラーは業界の未来と業務発展に自信を持って、2019年の年間出荷量は約40%増加すると予想している。同時に、グローバルで高効率単結晶製品に対する需要を維持するとジンコソーラーが予測している、そして、透明両面発電モジュールなど新製品を引き続き開発している。

太陽光発電産業は空前の繁栄期において厳しい現実と直面しているけど、技術の急速な変革は競争が更に激しく、市場がますます集中化するパターンが形成されている。

ジンコソーラー（JinkoSolar Holding Co., Ltd.）について

ジンコソーラー（NYSE:JKS）は太陽光発電産業のグローバルリーダーです。ジンコソーラーは中国、米国、日本、ドイツ、英国、チリ、南アフリカ、インド、メキシコ、ブラジル、アラブ首長国連邦（UAE）、イタリア、スペイン、フランス、ベルギー、その他の諸国地域にあるさまざまな公益、商業、居住区顧客基盤に対し、自社ソーラー製品を供給し、自社ソリューションとサービスを提供、販売。ジンコソーラーは2018年12月31日

時点で、垂直統合ソーラー製品バリューチェーンを構築して、シリコンインゴットとウエハーで 9.7GW、太陽電池で 7.0GW、太陽光発電モジュールで 10.8GW の年間総発電容量がある。

ジンコソーラーは世界で 6 つの生産拠点があり、日本 (2) シンガポール、インド、トルコ、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、オーストラリア、南アフリカ、アラブ首長国連邦、15 の海外子会社を持ち、販売チームはイギリス、ブルガリア、ギリシャ、ルーマニア、ヨルダン、サウジアラビア、南アフリカ、エジプト、モロッコ、加納、ケニア、コスタリカ、コロンビア、パナマとアルゼンチンに広がって、従業員が 1 万 2000 人以上を雇用しております。

〒104-0031

東京都中央区京橋二丁目 2 番 1 号京橋エドグラン 9 階

代表電話：03-6262-6009

FAX：03-6262-3339

ホームページ：<http://www.jinkosolar.com/index.html?lan=jp>